

3月のデータ

4月1日現在 () 内は前月比

●人のうごき

人口 112,815 人
(-438)

男性 52,311 人

女性 60,504 人

出生 61 人

死亡 154 人

転入など 603 人

転出など 948 人

世帯数 56,369 世帯
(-3)

●火災など

火災 6 件 / 救急 446 件 /
交通事故 35 件

5月の納税期限 6月1日(月)

固定資産税 1 期分、軽自動車税

ごみ・リサイクルなど

※5月4日(祝)、5日(祝)、6日(休)
のごみ収集、資源物回収は休
みです。

※5月4日(祝)のし尿収集は休み
です。

●今月の休日窓口 5月10日(日)

時間 午前8時30分～午後0時30分

開設 市民課、保険年金課、税務課、
納税課、子ども家庭課

※詳しくは、市役所代表電話から
各課へ。ホームページでも確認
できます。



■新型コロナウイルスに感染症の相談窓口

帰国者・接触者相談センター

☎ 68-5224 FAX 72-3035

大牟田市

住所 大牟田市有明町2丁目3番地

電話 0944-41-2222 (代表)

FAX 0944-41-2552 (代表)

ホームページ <http://www.city.omuta.lg.jp>

発行・編集 広報課 ☎41-2505

広報紙の配布に関する問い合わせは、
シルバー人材センター (☎53-2319) へ

人が育ち、
人のにぎわい、
人を大切にするまち

それなら、おおむた



目次 contents

2020.5.1

No.1253

- 3 未来を担う“おおむたっ子”中友小学校
- 4 新型コロナウイルス感染症
- 8 まちかどレポート
新型コロナウイルス対策に役立ててください ほか
- 9 萩尾望都さんへ市民栄誉賞
- 10 特集 令和2年度予算
- 14 市からのお知らせ (01～10)
あなたの声を聴かせてください ほか
- 19 軽自動車税(種別割)のお知らせ
- 20 すこやか健康
成人用肺炎球菌予防接種を受けましょう ほか
- 24 令和2年度水道事業会計・公共下水道事業会計予算
- 25 暮らしの情報
お知らせ / 講座・講演会 / 募集 / 仕事・資格 / 相談
- 28 食改善おすすめ簡単レシピ / 消費生活センター
- 29 5月の無料相談
- 30 おでかけガイド
- 31 子育てひろば
- 32 おおむたまちなか新聞
- 33 会社訪問
- 34 動物園へ行こう / 市民のひろば
- 35 休日当番医・平日時間外小児急患診療当番医
- 36 おおむた輝き人

♪次回は6月1日号です。

6月1日～3日にお届けします。



今号の表紙



新型コロナの影響で
厳しい状況が続く飲食
店で、持ち帰りや宅配
などの新たなサービス
を始める取り組みが始
まっています。7ペー
ジに関連記事を載せて
います。
(小料理屋 織々)



学んだことを生かし、認知症の人への声かけを模擬訓練で行います／募金活動や担当地区の独居高齢者に名刺配りも行います

第26回!

未来を担う“おおむたっ子” みんながつながる中友校区を目指して

中友小学校

中友小学校では、ESD教育の一環として、地域に根ざした福祉教育・地域学習を行っています。その中で、5年生は年間を通して、子ども民生委員活動を行っています。

子どもたちは、地域の皆さんや民生委員さんの協力のもと、子ども民生委員の委嘱状交付式、担当する地区の独居高齢者宅への訪問、認知症学習、ほっとあんしんネットワーク模擬訓練、敬老会への参加、赤い羽根共同募金活動など、さまざまな活動を行います。

活動を行う中で、地域の人たちの温かさや民生委員さんの地域への熱い思いにふれ、自分たちの住む地域が人と人がつながりを持って生活していることを実感し、誰もが安心して暮らせる中友校区にしていきたいために、自分たちができることを考え、実践できるようになっていきます。

このような活動を通し、1年間の活動終了後も、普段の暮らしの中で地域との関わりが増えるなど、地域を大切にすることができる思いやりの心が育まれています。



児童数 143 人
(令和2年4月1日現在)

市の中央部に位置し、大牟田駅も近く、利便性の高い校区です。校区内には、商店・飲食店や中小工場などが数多くあります。



活動を通して感じたこと、成長したことなどの思いを民生委員の皆さんに伝えました

大牟田の文化財こぼれ話

日本最古の石造アーチ型水路橋～早鐘眼鏡橋～

早鐘眼鏡橋は、今の太宰市の南半分を治めていた三池藩が、延宝2(1674)年に早鐘池の農業用水を通すため太宰川にかけた水路橋です。眼鏡橋の技術が日本に伝えられたのは江戸時代初めの頃で、長崎で最初に造られました。それから40年後、三池藩から長崎まで技術を学びに行き、早鐘眼鏡橋を完成させました。

用水は干ばつに苦しめられていた現在の諏訪町、天領町などの水田を潤し、明治31(1898)年まで活用されました。

